

社会福祉法人あおば福祉会

おひさまっこ保育園

2021年度（第4年度）事業計画書（案）

はじめに

小規模保育事業所『おひさまっこ保育園』も4年目を迎えました。地域の中で子育てをする人や高齢者の方達が集う場としての役割を担ってきました。しかし、コロナの影響で集う場が少なくなり、子ども達との交流も少ない一年になりました。人が集う事で、暮らしの喜びや悩みも共有出来て、互いに支えあう事ができるという事を、そうならない状況を経験して、より強く意識する様になりました。コロナはまだ収束しませんが、感染予防に気をつけながら、今年度はおひさまっこの三階を拠点とし、卒園した子ども達や保護者の居場所づくりに取り組んでいきたいと思ひます。また、小規模保育園ならではの『異年齢保育』も取り組みながら、おひさま保育園と連携し、地域の活性化に貢献していきたいと思ひます。

1 こどもの入園予定

おひさまっこ保育園 定員：12名

クラス（対数）	定員	4月予定児童数	内支援児	新入園児数（予定）	継続児童数
0歳児（3：1）	3	3	0	3	0
1歳児（5：1）	4	4	0	1	3
2歳児（6：1）	5	5	0	1	4
合計	12	12	0	5	7

*給食はおひさま保育園から搬入

2 職員体制と職員の状況（新規採用・異動職員）

異動者
 副主任（おひさま岡町保育園へ異動）
 保育士①（おひさま保育園へ異動）
 保育士②（おひさま岡町保育園より異動）

正規職員・・・・・・・・・・ 3名 総主任1・保育士2

パート職員・・・・・・・・・・ 6名

・常勤パート職員・・・・・・・・ 1名

・短時間パート職員・・・・・・ 5名

嘱託医・・・・・・・・・・・・ 2名

保育士2名・保育補助1名・警備1名・清掃1名

内科 なんばこどもクリニック （難波 直樹小児科医師）

歯科 カワムラ歯科診療所 （河村 忠成歯科医師）

3 子どもの安全と健康・危機管理

子どもの安全を最優先していくための環境整備を行う

・絵本棚や教材棚の整備をする。

危機管理に対しての継続的な学習と実践をする

- ・コロナの感染予防をはかりながら、手洗いを丁寧にする。
- ・窒息・誤飲を防ぐための給食提供のありかたを検討する。ヒヤリハットの事例や子どもを巡る事故を通して、教訓にしていく。
- ・様々なケースを想定した避難訓練と避難経路を確認する。
- ・消火器は、職員全員が使えるようになる訓練を行う。
- ・近年の災害から、水害や不審者訓練を行う。
- ・朝の視診についての徹底を図るために、観察の視点を全職員で学び合い、記録を継続する。

日常におこる事故やけがの検証をする

- ・ヒヤリ・ハットについては、クラス間で共有、検討し、全体で検討が必要な場合は職員会議で報告・分析する。
- ・リスクマネジメントの専門部をつくって、職員会議で共有化する。

労働環境を守るために

- ・衛生推進者のもとに「施設内設備のチェックリスト」を活用し、月に1回点検をしていく。
- ・腰痛対策の学習を行い、毎日のストレッチや腰痛予防体操を行う。

4 保護者の願いに応え、子どもと共に育ちあう関係を大切に！

保護者の要求や願いに応え、共に育ちあう喜びが共有できる

- ・北支部スポーツ大会への参加を呼びかけながら、新しい保護者同士の関係を育てていく
- ・おひさま保育園・おひさまっこ保育園が連携施設として土曜保育、夏・年末の保育協力日についてはこれからも連携を図る。運動会・リズム参観・生活発表会、そして季節に関わる行事も、おひさま・おひさまっこ両園合同で行う。懇談会や保育参加などを通して、保護者同士が繋がりがあえる機会を両園でつくる。
- ・太鼓サークル『陽（サン）』の活動を通して、保護者と職員の連携を図りながら、文化的な活動を支援していく。
- ・長時間保育のため日常話ができない保護者との懇談会や家庭訪問の実施を積極的にする。
- ・保護者会共催の親睦会にも参加しながら、保護者同士の関係を結んでいく。

5 地域に根ざし、地域に必要とされる保育園をめざして（地域貢献事業）

地域に開かれた保育園をめざし、地域貢献事業に取り組みます

- ・地域貢献事業、子どもの居場所づくり『おひさまの家』に取り組む。
- ・社会福祉協議会と自治会と共に、住民主体支え合い活動（通所型）ぐんぐん元気塾・自治会の会議などの開催場所として、おひさまっこ保育園の三階を使用する。
- ・高齢者うたごえサークルの人たちと子どもたちも一緒に交流する空間と時間を共有する。
- ・園横の公園掃除を保育に位置づけ、地域の美化に努めていく。

地域の教育機関・施設との連携を

- ・幼・保・小連絡協議会を中心に、近隣の施設交流をはじめ、教師との交流の場を持っていく。
- ・豊中市立児童発達支援センターと連携しながら、発達に弱さを抱える子ども達や保護者を支援していく。

地域にとって大切な社会資源としての保育園に

- ・地域のあそぼう会（文庫活動）に参加する人との関係づくりを図る。担当者（総主任）を中心にし、おひさま保育園と連携して、育児相談や離乳食相談会をおこなう。
- ・読み聞かせボランティアを、おひさま保育園・おひさまっこ保育園でおこない、地域の子ども達も参加できる様に呼びかける。
- ・「熊野田校区福祉連絡会」「夕日丘自治会（さつき会・子ども会）の方々と一緒に、地域の福祉向上におひさま保育園と共に努めていく（配食サービス・介護予防・親睦会）。

6 職員の資質向上を目指して

「実践」と「学習」が結びついた研修を

- ・おひさま岡町保育園と連携を図り、保育計画や実践の交流をする。
- ・職場の研修体系を整えて、一人ひとりに応じたものと、キャリア段階に沿った研修課題を明確にする。
- ・『長瀬研修』『障害児ケース検討会（乳児）』を実践と照らして年に3回行う。

他園との交流をして、学び合う

- ・近隣の公園に集って遊んでいる他園の保育者にも声をかけながら、一緒に遊ぶ機会をつくる。

7 中・長期計画に関して

人について

- ・管理体制を整えながら、より民主的な運営をはかる事ができるようにする。併せて、おひさま岡町との人事交流や会議などを計画的におこなう。

修繕について

- ・休憩室に棚を設置、及び整備をする。

事業について

- ・おひさまっこ保育園の3階が、地域福祉の拠点の場になっていくために、仕組みづくりをしていく。